

いぬなし青葉

令和4年9月13日

第11号

校長 山下英樹

本年度の4月に3年生の生徒を対象に全国学力・学習状況調査を、4～5月に1・2年生を対象に、みえスタディチェックを、6月に全校生徒を対象に生活実態調査を行いました。その結果や結果から見てきたものを、今回から、「学力的な面について」「学習習慣等について」「生活習慣等について」「自尊感情等について」の4回に分けてお知らせします。文字が多く、読んでいただくのに時間がかかりますが、お時間のある時に、ゆっくりと目を通していただき、お子さまの成長につなげていただければと思います。よろしくお祈りいたします。

全国学力・学習状況調査、みえスタディチェック、生活実態調査の結果 および

そこから見えてくるもの

- 全国学力・学習状況調査（以下、全国学調）とは、文部科学省が全国の中学3年生全員を対象に、学力及び学習状況等の把握を目的に、2007年から始まった調査です。今年度は4年ぶりに理科の調査が実施されました。全国平均との比較ができ、本校の強みや課題が把握できます。
- みえスタディチェック（以下、みえスタ）とは、全国学調の解答状況を分析して三重県教育委員会が作成した問題で、県下の中学1・2年生が取り組みます。数学、国語、理科の3教科で、今年度はインターネット上で出題され、タブレットを使って解答しました。今年度は4月後半から5月前半にかけて実施しました。
- 生活実態調査とは、本校独自の調査で、全校生徒に年間2回実施しています。全国学調の生徒質問紙の設問とある程度合わせながら、生徒の生活状況や学習状況を把握し、生活指導、学習指導および授業改善につなげています。今年度は6月に実施しました。過去の本校の生徒の状況と比較できます。
- 以上の3つの調査の主な結果と、その結果から見てきたことのお知らせします。それらのことをもとに、研修委員会を中心に本校の取組や方向性を確認し、授業改善や指導改善につなげていきます。ご家庭においても、家での過ごし方や家庭学習の取組を振り返っていただき、お子様の成長につなげていただきますようお願いいたします。

学力的な面について

- 各教科の正答率は以下のようになりました。

【表1】		国語	数学	理科
1年生	県平均値と比較して	ほぼ同じ	少し上回っている	上回っている
2年生	県平均値と比較して	少し下回っている	下回っている	ほぼ同じ
3年生	全国平均値と比較して	少し下回っている	ほぼ同じ	ほぼ同じ

【1年生】国語では、県の平均値とほぼ同じで、基本的な学力は身につけていると考えられます。ただ、記述式の問題の正答率は低く、考えを書くことに力を入れ、指導していくことを確認しました。数学では、データの活用の領域の正答率が高く、データを整理して表やグラフから読み取る力がついています。反対に割合や分数の意味の理解が低いことを把握しました。理科では、記述式の問題の正答率が高い結果となりました。振り子運動、月の位置を答える問題の正答率が低く、復習の機会を取り入れていきます。

【2年生】国語では、読み取る問題において、県平均値を上回るものが多くありました。昨年度から読解力の向上に力を入れてきており、その成果が表れたと考えられます。逆に表現力に課題があり、自分の考えや条件に合った作文が書けるよう、指導に力を入れていくことを確認しました。数学では数と式の領域の正答率が高く、データの活用の領域の正答率が低く、課題が見られました。理科では、生物分野、理学分野の正答率が高く、実験の条件を変えて考察する問題や濃度の問題に課題が見られました。

【3年生】国語では自分の考えの根拠を明確にしたり、自分の解釈を表現したりする質問の正答率が高くなりました。逆に助動詞や漢字、行書等の知識を問う問題の正答率が低く、意図的に復習する機会を設ける必要性を感じました。数学では、データの活用の領域の正答率が高く、また、数学的に理由を考えたり、説明したりしようとする生徒が多いことが分かりました。逆に、1・2年で学習した内容に関する問題の正答率が低く、数学の用語を覚えていない生徒が多いことも把握できました。復習の機会を取り入れてくことを確認しました。理科については、おおむね正答率は全国、県内の平均と同程度です。ただ分野によっては苦手としている傾向もあるので、今後復習を取り入れるなどの工夫を行う予定です。

- 全国学調における本校3年生の各教科に対する意識は次のようになりました。「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」（以下、肯定的な回答）と答えた生徒の割合）（単位 %）

【表2】	国語 本校/全国	数学 本校/全国	理科 本校/全国
教科の勉強は好きか	77.4/61.9	60.4/58.1	45.2/56.4
教科の勉強は大切だと思うか	95.5/93.2	87.5/86.6	63.8/76.8
教科の授業内容はよくわかるか	89.3/81.2	81.9/76.2	59.3/75.2
教科で勉強したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか	92.7/89.9	76.3/76.5	56.5/61.5

- **国語に対する興味、関心が全国平均と比べ、とても高い**ことがよくわかります。また「読書は好きか」の問いに対し、肯定的に答えた生徒の割合も、79.1%（全国平均 68.2%）と非常に高く、普段の国語の授業や毎日の朝の読書等の取組が成果として表れてきているものと考えます。
- **数学に対する興味、関心も全国平均と比べ、高くなっています**。また、数学に関する他の質問で肯定的に回答した生徒の割合は次のようになりました。【表3】（単位 % 本校/全国）

数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか	52.6/47.3
数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えるか	81.9/75.2
数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えるか	78.5/70.2
数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしているか	89.8/79.6

- これらの設問に対する回答からも、数学の授業に対し、受け身的ではなく、主体的に意欲的に取り組んでいることがわかります。
- **理科に対する興味、関心については、全国平均よりも低い結果となりました**。理科に関する他の質問の肯定的に回答した生徒の割合をまとめました。【表4】

理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えるか	50.8/52.7
将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいか	17.5/22.1

- 現3年生は入学時よりコロナの影響で理科室の使用がほとんどできず、理科の教科のよさである、さまざまな器具を用いた実験・観察をする機会が非常に少ない状況です。可能な限り教室で演示実験をしたり、その過程や意義を解説したりするなどの措置をとってきました。しかしながら、「興味・関心を高めるに効果的な実験」「実験方法や手順の計画立案」「得られた結果をもとに自分で考え、または、グループで話し合いながら解決に至るプロセス」「実際に器具を手にし、手順に沿って進めていく操作する経験」などは、どうしても少なくなっていました。今回の結果を受け止め、生徒たち自らの学びや、関心を高めるような授業を企図していきます。
- 国語、数学、理科の3教科に限らず、すべての教科で、学調やみえスタの結果をしっかりと受け止め、日々、授業を見直していくことを確認しました。授業を進める中で、教師は「生徒にとって主体的な学びとなっているか」「生徒にとって深い学びとなっているか」を常に意識し、生徒自身が「何がわかったのか」「何ができるようになったのか」「何のために学習しているのか」「この内容がどのようにつながっていくのか」等が実感できる授業を目指していきます。